環境リスク初期評価の進捗状況

平成29年12月26日 環境保健部環境リスク評価室

1. 化学物質の環境リスク初期評価について

化学物質の環境リスク評価とは、評価対象とする化学物質について、①人の健康及び生態系に対する有害性を特定し、用量(濃度)一反応(影響)関係を整理する「有害性評価」と、②人及び生態系に対する化学物質の環境経由の曝露量を見積もる「曝露評価」を行い、③両者の結果を比較することによってリスクの程度を判定するものである。

環境省では、環境リスク管理のための施策を念頭に置きつつ、多数の化学物質の中から相対 的に環境リスクが高い可能性がある物質をスクリーニングするための初期評価として、健康リ スク及び生態リスクにわたる「環境リスク初期評価」を実施している。

健康リスク初期評価は、化学物質の人の健康に対する有害性の評価を行った上で、その物質の環境に由来する曝露が人の健康に及ぼすリスクについてスクリーニング的な評価を行うものである。

生態リスク初期評価は、化学物質の水生生物に対する生態毒性の評価を行った上で、その物質の水質からの曝露が生態系に及ぼすリスクについてスクリーニング的な評価を行うものである。

2. これまでの推進状況について

環境省では、平成9年度より化学物質の環境リスク初期評価に着手し、これまでに15次に わたりとりまとめ、環境リスク初期評価として252物質、追加的に実施した生態リスク初期 評価として95物質について評価結果を公表したところである。これまでの推進状況について は表1のとおりである。

評価結果は、「化学物質の環境リスク評価」(通称「グレー本」)として公表している。なお、 これまでの評価結果の概要については別添参考のとおりである。

3. 第16次とりまとめについて

(1) 概要

今般、公表予定の第16次とりまとめでは、健康リスクと生態リスクの双方を対象とした環境リスク初期評価として11物質、追加的に実施した生態リスク初期評価として1物質について評価結果をとりまとめた。とりまとめに当たっては、有識者で構成される環境リスク評価委員会の企画委員会及び曝露評価、健康リスク評価、生態リスク評価に関する各分科会において、数次にわたり議論をいただいたところである。

なお、第16次とりまとめとして初期評価を実施した物質については表2、表3を参照、検討体制については図1のとおりである。

表1 環境リスク初期評価の進捗状況

とりまとめ	公表時期	環境リスク初期評価	追加的に実施した生態リス ク初期評価
パイロット事業	平成 14 年 1 月	39 物質	ク 切 が 証刊画 —
			CO HAMEE
第2次	平成 15 年 1 月	13 物質	69 物質
第3次	平成 16 年 7 月	21 物質	32 物質
第4次	平成17年8月	20 物質	9 物質
第5次	平成 18 年 10 月	23 物質	6 物質
第6次	平成20年2月	21 物質	11 物質
第7次	平成 21 年 3 月	23 物質	11 物質
第8次	平成 22 年 3 月	19 物質	7 物質
第9次	平成23年1月	13 物質	7 物質
第10次	平成 23 年 12 月	17 物質	2 物質注1
第11次	平成 24 年 12 月	18 物質	5 物質
第12次	平成 25 年 12 月	14 物質	_
第13次	平成 26 年 12 月	14 物質	4 物質
第14次	平成 27 年 12 月	15 物質	7 物質
第15次	平成 28 年 12 月	14 物質	1 物質
第16次	平成29年12月(予定)	11 物質	1 物質

注1 キシレン異性体(o-, m-, p-体)を1物質とした。

(2) 物質選定について

第16次とりまとめに係る物質は、環境省内の関係部局や専門家から、各々の施策や調査研究において環境リスク初期評価を行うニーズのある物質を聴取し、その中の優先度の高いものから選定する「ニーズ方式」を基本として選定するとともに、環境調査において検出率が高かった物質などから有識者の意見などを踏まえて相対的に優先的に初期評価を行う必要性が高いと判断された物質を追加選定した。

また、初期評価において、曝露情報や有害性情報の収集の必要性が提言された物質で、新たにそれらの情報が得られた物質のうち、評価結果が変更となる可能性のあった物質等について再評価を実施した。

有機スズ化合物については、環境モニタリング調査が行われている有機スズ化合物のうち、 化学物質審査規制法の第一種特定化学物質、第二種特定化学物質及び監視化学物質を除いて、 環境モニタリング調査で検出データが得られた物質の中から選定した。

表2 第16次とりまとめ公表物質(環境リスク初期評価物質)

No.	CAS No.	物質名	選定理由	過去の公表 注)
1	504-29-0	2-アミノピリジン	環境モニタリング調査検出物質(水質)	
2	123-30-8	p-アミノフェノール	環境モニタリング調査検出物質(水質)	第3次(生態)
3	7440-22-4(銀)	銀及びその化合物	要望物質(大気環境課)	

No.	CAS No.	物質名	選定理由	過去の公表 注)
4	51-28-5	2,4-ジニトロフェノール	環境モニタリング調査検出物質(水 質)	第2次(生態)
5	103-50-4	ジベンジルエーテル	環境モニタリング調査検出物質(水 質)	第3次(生態)
6	132-65-0	ジベンゾ[b,d]チオフェン	環境モニタリング調査検出物質(水 質)	
7	l	有機スズ化合物(ジオクチルスズ 化合物)	要望物質 (大気環境課) 「有機スズ 化合物として」 (環境モニタリング 調査検出物質 (水質))	
8	_	有機スズ化合物(モノブチルスズ 化合物)	要望物質 (大気環境課)「有機スズ化 合物として」(環境モニタリング調査 検出物質 (大気・水質))	
9	_	有機スズ化合物(ジブチルスズ化 合物)	要望物質(大気環境課)「有機スズ 化合物として」(環境モニタリング 調査検出物質(水質))	第8次 (健康・生態)
10	_	有機スズ化合物(ジメチルスズ化 合物)	要望物質 (大気環境課)「有機スズ化 合物として」(環境モニタリング調査 検出物質 (大気・水質))	
11	52829-07-9	ビス(2,2,6,6-テトラメチル4ピペ リジル)セバケート	環境モニタリング調査検出物質(水 質)	

注)「過去の公表」欄の記載内容については、何次のとりまとめで公表したかを示した。また、「生態」とあるのは生態リスク初期評価の結果を、「健康」とあるのは健康リスク初期評価の結果を公表したことを示す。

表3 第16次とりまとめ公表物質(追加的に生態リスク初期評価を実施する物質)

No.	CAS No.	物質名	選定理由	過去の公表 注)
1	81103-11-9	クラリスロマイシン	要望物質(環境安全課)	

注)「過去の公表」欄の記載内容については、何次のとりまとめで公表したかを示した。また、「生態」とあるのは生態リスク 初期評価の結果を公表したことを示す。

①検討事項 1 環境リスク評価関連調査

- ・化学物質の環境リスク評価結果のとりまとめ
- ・新たに環境リスク初期評価に着手する物質等の選定
- ・環境リスク初期評価に関する横断的課題等の検討
- 2 初期評価手法の高度化に関する検討
- 3 リスク管理施策への適用に関する検討

②構成委員

青木 康展 国立環境研究所 白石 寛明 国立環境研究所 〇内山 巌雄 京都大学名誉教授 鈴木 規之 国立環境研究所

楠井 隆史 富山県立大学 関澤 純 食品保健科学情報交流協議会

環境リスク評価委員会 企画委員会

小山 次朗 鹿児島大学名誉教授 中杉 修身 元上智大学

曝露評価分科会

①検討事項

- ・評価対象物質に関する基本的情報(物理化学的性状、環境運 命に関する基本的事項)の確認
- ・実測データ及び環境排出データに基づく曝露評価の実施
- ・曝露評価手法に関する検討

②構成委員

相澤 貴子 水道技術 鈴木 規之 国立環境研究所 研究センター 智昭 国立医薬品 大野 浩一 国立環境研究所 食品衛生研究所 片谷 教孝 桜美林大学 中島 大介 国立環境研究所

川田 邦明 新潟薬科大学 ○中杉 修身 元上智大学 櫻井 健郎 国立環境研究所 三島 聡子 神奈川県環境 白石 寛明 国立環境研究所 科学センター

健康リスク評価分科会

①検討事項

体内動態、代謝に関する知見の確認

安全機構

- ・有害性評価(経口曝露及び吸入曝露による非発がん影響、発が ん影響)
- 無毒性量等の設定
- スロープファクター及びユニットリスクの設定
- ・健康リスクの判定、総合評価

②構成委員

○青木 康展 国立環境研究所 佐藤 洋 岩毛大学 賢一 近畿大学 中野真規子 慶應義塾大学 安達 修一 相模女子大学 野見山哲生 信州大学

小田切陽一 山梨県立大学 古山 昭子 国立環境研究所 菅野 純 労働者健康 堀口 兵剛 北里大学

松本 理

国立環境研究所

小池 英子 国立環境研究所 村田 勝敬 秋田大学

発がんリスク評価ワーキンググループ

①検討事項

- 遺伝子傷害性の評価
- ・実験動物及びヒトの知見による発がん性の評価
- ・スロープファクター及びユニットリスクの算出と定量的リスク 評価

②構成委員

○青木 康展 国立環境研究所 小田切陽一 山梨県立大学 東 賢一 近畿大学 佐藤 洋 岩手大学 安達 修一 相模女子大学 松本 理 国立環境研究所

生態リスク評価分科会

①検討事項

- ・評価対象物質の生態毒性に関する知見の信頼性評価
- ・予測無影響濃度 (PNEC) の設定
- ・生態リスクの判定、総合評価
- 生態リスク評価手法に関する検討

②構成委員

井藤 和人 島根大学 菅谷 芳雄 国立環境研究所 大嶋 雄治 九州大学 鑪迫 典久 愛媛大学 隱塚 俊満 水産研究・ 中杉 修身 元上智大学 教育機構 真朗 元東京動物園協会 ○楠井 隆史 富山県立大学 山本 裕史 国立環境研究所

小山 次朗 鹿児島大学名誉教授

金属のリスク評価検討ワーキンググループ

①検討事項

・金属のリスク評価手法に関する検討

②構成委員

岩崎 雄一 産業技術総合研究所 加茂 将史 産業技術総合研究所 産業技術総合研究所

永井 孝志 農業・食品産業技術総合研究機構

林 岳彦 国立環境研究所

〇:座長

環境リスク初期評価(第16次とりまとめ)の検討体制 図 1

「化学物質の環境リスク評価」(第1巻~第15巻)の概要

第1巻 環境リスク初期評価 (39物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)
	アセトアルデヒド	ホルムアルデヒド
	p-ジクロロベンゼン	ディルドリン
	ホルムアルデヒド	
	(4物質)	(3物質)
関連情報の収集が必要	8物質	6 物質
相体的にリスクは低い	18物質	15物質
リスクの判定ができない	9 物質	1 5 物質

第2巻 環境リスク初期評価 (13物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補		4- <i>t</i> -オクチルフェノール
	なし	クロロホルム
	75 C	ノニルフェノール
		(3物質)
関連情報の収集が必要	5 物質	2物質
更なる作業を必要としない	5 物質	5 物質
リスクの判定ができない	3物質	3物質

第2巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (69物質)

	生	三態リスク
詳細な評価を行う候補	アクロレイン	チウラム
	EPN	チオベンカルブ
	イソキサチオン	テトラクロロエチレン
	イソプロチオラン	トリクロロエチレン
	イソプロベンホス	トリフルラリン
	エチレンジアミン四酢酸	ピリジン
	オキシン銅	フェニトロチオン
	クロルニトロフェン	フェノブカルブ
	ジクロルボス	ベンゾ[a]ピレン
	ダイアジノン	(19物質)
関連情報の収集が必要	3 物質	
更なる作業を必要としない	1 4 物質	
リスクの判定ができない	3 3 物質	

第2巻 発がん性初期評価 (6物質)

	発がんリスク	
詳細な評価を行う候補	塩化ビニルモノマー	
	ホルムアルデヒド	
	(2物質)	
関連情報の収集が必要	1 物質	
更なる作業を必要としない	なし	
リスクの判定ができない	3物質	

第3巻 環境リスク初期評価 (21物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	アクロレイン	アクロレイン
	ピリジン	エチレンジアミン四酢酸
		ビスフェノール A
		ピリジン
	(2物質)	(4物質)
関連情報の収集が必要	2物質	2物質
更なる作業を必要としない	10物質	1 1 物質
リスクの判定ができない	7物質	4物質

第3巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (32物質)

	生態リスク	
詳細な評価を行う候補	ニトリロ三酢酸	
	(1物質)	
関連情報の収集が必要	なし	
更なる作業を必要としない	1 2 物質	
リスクの判定ができない	1 9 物質	

第3巻 発がん性初期評価 (4物質)

	発がんリスク	
詳細な評価を行う候補	1,2-ジクロロエタン	
	(1物質)	
関連情報の収集が必要	3物質	

第4巻 環境リスク初期評価 (20物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	1-ブタノール	ニトリロ三酢酸
	(1物質)	(1物質)
関連情報の収集が必要	1 物質	1 物質
更なる作業を必要としない	13物質	1 2 物質
リスクの判定ができない	5物質	6 物質

第4巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (9物質)

	生態リスク
詳細な評価を行う候補	なし
関連情報の収集が必要	なし
更なる作業を必要としない	2 物質
リスクの判定ができない	7 物質

第5巻 環境リスク初期評価 (23物質)

	健康リスク	生態リスク
詳細な評価を行う候補	クロトンアルデヒド	p-クロロアニリン
	ベンゾ[a]ピレン	ジフェニルアミン
		ベンゾ[a]ピレン
	(2物質)	(3物質)
関連情報の収集が必要	0 物質	2 物質
更なる作業を必要としない	1 3 物質	9 物質
リスクの判定ができない	8物質	9 物質

第5巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (6物質)

	生態リスク
詳細な評価を行う候補	なし
関連情報の収集が必要	1 物質
更なる作業を必要としない	2 物質
リスクの判定ができない	3物質

第6巻 環境リスク初期評価 (21物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		なし	2,6-ジ- <i>t</i> -ブチル-4-メチルフェノール
		なし	(1物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えら		
情報の収	れるが、引き続き、関連情報	4物質	2 物質
集が必要	の収集が必要		
	リスクの判定はできないが、		
	総合的に考えて、関連情報の	8物質	なし
	収集が必要		
C. 現時点	では更なる作業の必要性は低	9 物質	17物質
V		り物貝	1 7 物員

注) 21 物質のうち 1 物質については、生態リスク評価未実施。

第6巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (11物質)

	生態リスク		
A. 詳細な	:評価を行う候補	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
		ふっ化水素及びその水溶性塩	
		ほう素及びその化合物	
		マンガン及びその化合物	
		<i>N</i> -メチルカルバミン酸 2,3-ジヒドロ-2,2-ジメ	
		チル-7-ベンゾ[b]フラニル	
		(5物質)	
B. 関連	リスクはAより低いと考えられる		
情報の収	が、引き続き、関連情報の収集が必	1 物質	
集が必要	要		
	リスクの判定はできないが、総合的	O Han Fif	
	に考えて、関連情報の収集が必要	2物質	
C. 現時点	では更なる作業の必要性は低い	3 物質	

第7巻 環境リスク初期評価 (23物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な	評価を行う候補	1,2,4-トリメチルベンゼン	なし
		(1物質)	74 U
B. 関連	リスクはAより低いと考えら		
情報の収	れるが、引き続き、関連情報	3物質	2物質
集が必要	の収集が必要		
	リスクの判定はできないが、		
	総合的に考えて、関連情報の	2物質	2 物質
	収集が必要		
C. 現時点	では更なる作業の必要性は低	17物質	18物質
V \		1 170月	1 0 1/0 貝

注) 23 物質のうち1物質については、生態リスク評価未実施。

第7巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (10物質)

		生態リスク	
A. 詳細な評価を行う候補		5-クロロ-2-(2',4'-ジクロロフェノキシ)フェノール	
		1-デシルアルコール	
		ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	
		(3物質)	
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ		
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	集 2物質	
集が必要	が必要が必要		
	リスクの判定はできないが、総合		
	的に考えて、関連情報の収集が必	0 物質	
	要		
C. 現時点	では更なる作業の必要性は低い	5 物質	

第8巻 環境リスク初期評価 (16物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な	評価を行う候補	3 価クロム化合物	3 価クロム化合物
		ナフタレン	ジブチルスズ化合物
		(2物質)	(2物質)
B. 関連 情報の収 集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	3物質	0 物質
	リスクの判定はできないが、 総合的に考えて、関連情報の 収集が必要	1 物質	2 物質
C. 現時点 い	では更なる作業の必要性は低	10物質	9物質

注) 16 物質のうち 3 物質については、生態リスク評価未実施。

第8巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (7物質)

		生態リスク	
A. 詳細な評価を行う候補		鉛及びその化合物	
		ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	
		(2物質)	
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ		
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	0物質	
集が必要	が必要		
	リスクの判定はできないが、総合		
	的に考えて、関連情報の収集が必	4 物質	
	要		
C. 現時点	では更なる作業の必要性は低い	1 物質	

第9巻 環境リスク初期評価 (14物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な	:評価を行う候補	過塩素酸	
		(1物質)	0物質
B. 関連	リスクはAより低いと考えら		
情報の収	れるが、引き続き、関連情報	0 物質	4物質
集が必要	の収集が必要		
	リスクの判定はできないが、		
	総合的に考えて、関連情報の	6 物質	2物質
	収集が必要		
C. 現時点では更なる作業の必要性は低		7 物質	8 物質
V \		170月	0 7/0 貝

第9巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (7物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		アントラキノン
		3,4-ジクロロアニリン
		(2物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ	
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	1 物質
集が必要	が必要	
	リスクの判定はできないが、総合	
	的に考えて、関連情報の収集が必	0 物質
	要	
C. 現時点	では更なる作業の必要性は低い	4 物質

第10巻 環境リスク初期評価 (17物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な	:評価を行う候補	酢酸エチル	セリウム及びその化合物、
			ヒドロキノン
		(1物質)	(2物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えら		
情報の収	れるが、引き続き、関連情報	6 物質	4 物質
集が必要	の収集が必要		
	リスクの判定はできないが、		
	総合的に考えて、関連情報の	2 物質	1物質
	収集が必要		
C. 現時点	京では更なる作業の必要性は低	8 物質	9 物質
V)		0 初貝	3170貝

注) 17 物質のうち 1 物質については、生態リスク評価未実施。

第10巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (2物質)

		生態リスク
A. 詳細な	:評価を行う候補	6 価クロム化合物
		(1物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ	
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	1 物質
集が必要	が必要	
	リスクの判定はできないが、総合	
	的に考えて、関連情報の収集が必	0物質
	要	
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		0 物質

第11巻 環境リスク初期評価 (18物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		インジウム及びその化合物 (1物質)	コバルト及びその化合物 (1物質)
B. 関連 情報の収 集が必要	リスクはAより低いと考えら れるが、引き続き、関連情報 の収集が必要	5 物質	1 物質
	リスクの判定はできないが、 総合的に考えて、関連情報の 収集が必要	2 物質	4物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		10物質	12物質

第11巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (5物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		塩素酸
		(1物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ	
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	0 物質
集が必要	が必要	
	リスクの判定はできないが、総合	
	的に考えて、関連情報の収集が必	0 物質
	要	
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		4 物質

第12巻 環境リスク初期評価 (14物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な	:評価を行う候補	ベンズアルデヒド	ジメチルアミン
		(1物質)	(1物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えら		
情報の収	れるが、引き続き、関連情報	5物質	1物質
集が必要	の収集が必要		
	リスクの判定はできないが、		
	総合的に考えて、関連情報の	0 物質	0 物質
	収集が必要		
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8 物質	1 2 物質

第13巻 環境リスク初期評価 (14物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な	:評価を行う候補	エチルベンゼン、クロトン	3,4-ジクロロアニリン、チ
		アルデヒド、スチレン	才尿素
		(3物質)	(2物質)
B. 関連 情報の収 集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	3 物質	2 物質
	リスクの判定はできないが、 総合的に考えて、関連情報の 収集が必要	0 物質	1 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8 物質	8物質

第13巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (4物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		o-アミノフェノール、メチル=ベンゾイミダゾー
		ル-2-イルカルバマート
		(2物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ	
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	0 物質
集が必要	が必要	
	リスクの判定はできないが、総合	
	的に考えて、関連情報の収集が必	1 物質
	要	
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		1 物質

第14巻 環境リスク初期評価 (15物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		1,1-ジクロロエチレン (1物質)	セレン及びその化合物 (1物質)
B. 関連 情報の収 集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	2 物質	3物質
	リスクの判定はできないが、 総合的に考えて、関連情報の 収集が必要	4 物質	2 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		8 物質	6 物質

注) 15 物質のうち 3 物質については、生態リスク評価未実施。

第14巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (7物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		<i>N,N</i> -ジメチルオクタデシルアミン、 <i>N,N</i> -ジメチル
		ドデシルアミン
		(2物質)
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ	
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	0 物質
集が必要	が必要	
	リスクの判定はできないが、総合	
	的に考えて、関連情報の収集が必	1 物質
	要	
C. 現時点	では更なる作業の必要性は低い	4 物質

第15巻 環境リスク初期評価 (14物質)

		健康リスク	生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		1,2,3-トリメチルベンゼン (1物質)	アンチモン及びその化合物 (1物質)
B. 関連 情報の収 集が必要	リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	5 物質	4 物質
	リスクの判定はできないが、 総合的に考えて、関連情報の 収集が必要	3 物質	1 物質
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		6 物質	8 物質

第15巻 追加的に実施した生態リスク初期評価 (1物質)

		生態リスク
A. 詳細な評価を行う候補		0 物質
B. 関連	リスクはAより低いと考えられ	
情報の収	るが、引き続き、関連情報の収集	0 物質
集が必要	が必要	
	リスクの判定はできないが、総合	
	的に考えて、関連情報の収集が必	0 物質
	要	
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		1 物質